

中国新聞

夕刊

中国新聞社
広島市中区土橋町7番1号
〒730-8677 電話(082)236-2111
©中国新聞社 2009

きょうの紙面

市橋容疑者を送検 (3面)

ボクシング広島で無念 (2面)

希少昆虫引越成功 (4面)

広末いちずな役に共感 (7面)

中国新聞購読申し込み

0120-492-506

ホームページ

でるた



なかしま ひろふみ
中島 博文

「防犯伝道士」というネーミングを講師養成講座の先生から拜命したのが5年前である。20年来の親友の空き巣被害がきっかけとなり、身近なところから犯罪被害をなくそうと草の根活動的に各地の公民館などで防犯講座を行おうと決意し、今まで50回を超えた。

防犯のすすめ

る。

最初のうちは話術が下手で、参加者は退屈だったはず。何とか伝えたくて何度か講演しながら改良を重ね、防犯ガラスの破壊実演や自宅の鍵診断などで参加者にも体験してもらい、さらには感情の部分に訴えかける意味で歌まで披露し、少しずつ話を聞いてもらえるようになった。

た。もともと20年以上防犯に携わり、全国各地の研修会などに出席し、犯罪の手口や防犯理論などを習っていたので、「無知なる善良な市民」に伝えたいことはたくさんあった。例えば、玄関が侵入口となる確率は低い、玄関の防犯対策の様子からその家の防犯意識を類推して裏口に回る泥棒の心理や、「初犯で1人なら人を殺しても死刑にはならない」という日本の刑法を外国人窃盗団は熟知していることなどである。

5年前の広島

市安佐南区の公民館であった防犯講習会では、防犯ガラスの値段をやゆして「それなら泥棒被害に遭った方が安いかも…」と、参加者から「無知なる」感想が漏れたこともあった。しかし最近では、参加者から「泥棒は怖い、防犯対策は必要」との理解が進み始めた。さらなる伝道に努めたい。みんなが賢者になるまで。

(モリタ力代表取締役 広島市)